

同志社大学

2010年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2011年 3月 10日提出

所 属	職 名	氏 名
グローバル・スタディーズ研究科	教授	荻野 美穂
研 究 題 目	性と身体をめぐるポリティクスの日米比較：生殖技術を中心に	
研 究 成 果 の 概 要	<p>本研究は、現在、生殖管理のなかでも最も議論を呼ぶ問題となっている生殖補助医療技術（ART）に焦点を当て、とくに代理出産や卵子等の生殖細胞の商品化・市場化をめぐる、アメリカ合州国と日本の人々、とりわけフェミニストや女性運動家の間でどのような議論が展開されてきたのか、日米間にはどのような類似性と相違点が存在し、それは歴史的・社会的・文化的にどのような要因によって生じているのかを究明しようとするものである。</p> <p>本年も前年度に引き続き、研究課題に関連した文献資料やデータの収集と分析を進め、これまでに議論の整理と位置づけをおこなった。また、文部科学省・新学術領域研究（研究課題提案型）「女性に親和的なテクノロジーの探究と新しいヘルスケア・システムの創造」（代表者 金沢大学・日比野由利）に連携研究者として参加し、数次にわたる研究会において、日本、ドイツ、フランス、イタリア、インド等の国々における生殖補助医療技術の歴史と現状について研究している他の研究者たちとの間で情報交換および議論をおこなうことで、多くの収穫を得た。また、「第三者の関わる生殖技術について考える会」および「リプロダクション研究会」開催の研究会にも数度にわたり参加した。</p> <p>こうした研究活動から得られた知見にもとづき、以下の機会に講演もしくは研究発表をおこなった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ シンポジウム「生命の資源化の現在」において基調講演「生殖における身体の資源化とフェミニズム」 東京大学、6月12日 ・ 「生殖技術と新しい家族の形態」日本女性学研究会近代女性史分科会での報告、10月16日 ・ “From Abortion to Reproductive Technologies: Development of Women's Health Movement in Japan,” 5th International Conference of Applied Ethics, 北海道大学、11月6日 <p>また、研究課題関連の今年度出版物は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「ジェンダーをめぐるキーワード 生殖」『ジェンダー史学』第6号、10月、71-78頁 ・ 「テクノロジーと欲望：アメリカにおける生殖市場のいま」『女性学年報』第31号、156-169頁 ・ 「ジェンダー／セクシュアリティ／身体」服藤早苗他編『ジェンダー史叢書1 権力と身体』明石書店、2011年1月、22-41頁 	